

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|---------------|-----|------------|
| ○事業所名 | きらり水島（児発・非重心） | | |
| ○保護者評価実施期間 | R7年12月9日 | | R7年12月21日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 36名 | (回答者数) 30名 |
| ○従業者評価実施期間 | R7年12月10日 | | R7年12月21日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 7名 | (回答者数) 7名 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | R8年2月13日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|--|---|--|
| 1 | 児童発達支援ガイドライン・支援プログラム・個別支援計画の整合性がとれており、多職種が参画することによるアセスメントに基づいて、必要な見直しが行われている | フォーマル・インフォーマルの両面で、支援に関する意見交換が活発に行われている | 児童発達支援管理責任者が主体となって、左記の意見交換を構造的に整理・可視化し、どのスタッフでも支援計画の進捗状況や今後の見通しがわかるようにする |
| 2 | 利用児や保護者と共感的な関係が築かれ、安心感につながっている | 共感的にかかわるという風土が事業所に根づいており、事業所スタッフはそれを日々おのずと体現している | 左記のような強みを折にふれて伝え、継続していく動機づけを図ることと併せて、それを可能にするために働きやすい職場環境づくりに努めていく |
| 3 | 個別性に配慮して支援内容が検討され、そこには保護者の意見が反映され、複数のスタッフが参画することで、より多角的な視点にもとづいたものになっている | ・個別・集団、それぞれ利用児個々のねらいを設定し、できるかぎりすべてのねらいを盛り込んでプログラムを編成 ・ねらいの端緒は保護者の意見で、それを複数のスタッフでブラッシュアップして設定している | 個別性という前提は保ちつつ、あらかじめ想定されるねらいとプログラムを選択肢として整理し、編成ツールとして活用できるようにする |

| | 事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|---|---|
| 1 | 活動スペースは十分ではなく、ところどころ不便な箇所もある | 建物の老朽化 | 建物の大幅な改善は難しいため、今後も優先順位をつけながら老朽化対策（買い替え・修繕・改修など）を行っていく |
| 2 | 保護者やきょうだい同士の交流の機会 | 現在も交流の機会を設けてはいるが、参加率は高くない（必ずしもイコール満足度ではないが、ひとつの指標として捉えてはいる） | 参加しやすい交流の機会にするため、内容、実施頻度、時期など、改めて見直し、再検討する |
| 3 | 近隣の保育園・幼稚園や地域との交流の機会 | 左記の機会を支援プログラムに盛り込むことができていない | まずはお祭りやイベントといった既存の社会資源を活用し、そこに参加することで、他園や地域との交流を図る |